

JSPS Information

- ◇日本惑星科学会第43回総会議事録
- ◇日本惑星科学会第111回運営委員会議事録
- ◇日本惑星科学会賛助会員名簿
- ◇日本惑星科学会主催・共催・協賛・後援の研究会情報

◇日本惑星科学会第43回総会議事録

日 時：2015年5月25日(月)13:00-13:40
場 所：日本地球惑星科学連合2015年大会会場 A02
〒261-0021 千葉県千葉市美浜区ひび野2-3
アパホテル&リゾート<東京ベイ幕張>
正 会 員：616
定 足 数：62
参加人数：65名(開会時)(これに加えて非会員の傍聴者0名)
>65名(議事3.1採択時)>65名(議事3.2採択時)
委 任 状：129通(ただし、内3通分は提出者が総会に参加したため無効)
議 長：123通
倉本圭会員：2通
林祥介会員：1通

1. 開会宣言

諸田総務専門委員長が開会を宣言。

2. 議長団選出

運営委員会からの推薦で議長に北里宏平 会員，書記に樋口有理可 会員が選出された。

3. 議 事

3.1. 第12期下期(2014年度)活動報告

・基調報告(倉本会長)

2014年度の連合大会と秋季講演会の概要，学会員数の現状，学会誌発行状況，欧文専門誌の発行状況，最優秀発表賞(松野淳也 会員)・研究者賞(奥住聡 会員)，フロンティアセミナーの開催，等の説明がなされた。

注) 総会当日に配布された活動報告書では秋季講演会の参加者数が222名と記載されていたが，217名が正しいことが総会後に確認された。

・会計報告(荒井前財務専門委員長)

おおむね予算通りの執行であったことが報告された。

収入について，賛助会員数が減ったこと，寄付金があったこと，購読会員数の減少によるが報告された。
支出について，学会誌，秋季講演会費等の支出減，来年度への繰越額が増額したこと，賃借の現状等が

報告された。

- ・各種専門委員会報告

なし。

- ・会計監査報告(松田・山岸会計監事(代理：北里議長))

収支決済に誤りの無いことが確認された事が報告された。

- ・2014年度最優秀研究者受賞者発表(佐伯学会賞選考委員長)

武藤 恭之 会員が受賞されたことが報告された。

- ・質疑応答及び討論

なし。

- ・採択

第12期下期活動報告の採択が行われ、賛成：191(うち出席者65)、反対：0、保留：0により採択された。

3.2. 第13期上期(2014年度)活動方針

- ・基本方針(倉本会長)

秋季講演会の開催、遊星人の発行、月惑星探査来る10年の検討活動、フロンティアセミナー2015の開催、日本地球惑星科学連合2014年大会の開催、欧文学会誌EPSの発行、最優秀発表賞の受付、最優秀研究者賞の募集などが説明された。

- ・各種専門委員会活動方針

竹広財務委員長から、第13期上期予算執行状況の報告があり、収入支出ともにほぼ予算案通りであること、寄付金があったことなどが報告された。

- ・質疑応答

千秋博紀会員から、「学会費は1月1日付の身分で決まる」、との追加案内があった。

- ・採択

第13期上期活動方針の採択が行われ、賛成：191(うち出席者65)、反対：0、保留：0により採択された。

4. 報告事項

4.1. 2015年秋季講演会について(井田2015年秋季講演会組織委員長)

会期(10/14-10/16)、一般講演の内容および講演者、総会・懇親会、会場やその周辺の内容、懇親会は例年と異なり、軽食・スナック・飲み物が提供される軽いものになること、講演受付日程、会費などについて説明がなされた。

4.2. その他

惑星科学フロンティアセミナー2015について千秋博紀会員より案内があった。

5. 議長団解任

6. 閉会宣言

◇日本惑星科学会第111回運営委員会議事録

日 時：2015年5月24日(日)18：30－20：30

場 所：日本地球惑星科学連合 2015年大会会場 101B

(千葉市美浜区中瀬2-1 幕張メッセ国際会議場)

運営委員：

倉本 圭, 渡邊 誠一郎, 荒川 政彦, 田近 英一, 中村 昭子, 千秋 博紀, 中本 泰史, 並木 則行, 平田 成, 林 祥介, 井田 茂, 和田 浩二, 春山 純一, 竹広 真一, 諸田 智克, 永原 裕子, 橘 省吾, はしもと じょーじ,

小久保 英一郎, 荒井 朋子, 佐々木 晶, 生駒 大洋, 小林 直樹

オブザーバー:

納田 明達(連合大会プログラム委員)

佐伯 和人(学会賞選考委員長)

欠 席

中本(議長に委任)

永原(議長に委任)

小林(諸田委員に委任)

議題・報告事項:

1. 会計第12期下期決算

荒井前財務専門委員長より決算報告が行われた。

収入, 支出ともに概ね予算案通り執行した。

自然災害に伴う会費免除措置の適用はなし。賛助会員の会費収入が減少したものの, 正会員会費収入は予算より多くなり, 当期収入合計は増えている。支出は学会誌印刷費の減(ページ数減少による), 秋季講演会事業費の減, 惑星探査育英会の未開催などにより全体として減となり, 繰越金は増加した。特別会計は特筆すべきところなし。

支出の見方について教えて欲しい(春山)

秋季講演会の余剰金を学会会計の収入に入れている(荒井)

(赤字が出た場合は学会からの支出になる)

2. 会計第13期上期予算執行状況報告

竹広財務専門委員長より, 報告が行われた。

ほぼ予算案通り執行が行われている。匿名の方より寄付金10万円頂いたため, 発表賞賞金に使わせていただく。イーサイドとの業務契約の更新を行った。年間150万円(税含まず)×2年間(1/1付け)サーバ基礎開発費を来年度から計上する。30万円/年×3年間

サーバ基礎開発費は税込みか含まずか? (渡邊)

確認する(竹広)

報告内容は異議なく承認された。

3. 第12期下期活動報告ならびに第13期上期活動計画

諸田総務専門委員長より活動報告書と計画書について説明がなされた。

注) 委員会当日に配布された活動報告書では秋季講演会の参加者数が222名と記載されていたが, 217名が正しいことが委員会後に確認された。

共催などイベントの今後の予定は? (春山)

依頼が来たらその都度steeringで賛否を確認しているため, 予定として立てているものはない(諸田)

4. 2014年度最優秀研究者賞について

佐伯学会賞選考委員長より, 選考委員会での選考の結果が報告された。これにより

武藤 恭之 会員(工学院大学)

が受賞候補として推薦され, 異議なく承認された。

佐伯学会賞選考委員長より, 実情に合わせて発表賞の募集要項を変更したいとの提案があった。

発表賞エントリー受け付けメ切はどうか? (千秋)

通常のメ切と同じでも運用可能(むしろ変えるとトラブルのもと)だといまは考えている(佐伯)

予備審査のスケジュール上は大丈夫か? (春山)

メールベースでやれば問題ない(佐伯)

予備審査時には予稿集原稿が必要なのではないか？(渡邊)

そうかもしれない。見落としていた。対策は検討したい(佐伯)

「審査日」は講演会開催日のことか？予備審査実施日か？(渡邊)

講演会日の事を意図していた(佐伯)

非会員登録状態で必要な情報が得られるか、また発表申込時に発表賞エントリー可能かはシステム仕様を確認することが必要。また、秋季講演会での研究者賞授賞式に関する諸事は当年度の委員長・幹事が行うこととしたい。これまでは選考時(前年度)の委員長が行っていた。

応募者数を増やす方策は検討して欲しい(渡邊)

発表賞は当日の発表が評価されるのか、過去の実績も評価されるのか？(春山)

明文化されていないので当年度の委員に依存している(佐伯)

評価基準を明文化した方がよいのではないか？(応募を増やすため)(春山)

検討する。盛り込むとすると募集要項になる(佐伯)

確認したところ、評価基準が書いていないというのは記憶違いで、募集要項に明記してあった。評価基準を修正するかどうかは、今後、選考委員が募集要項を更新する際にあわせて検討することとしたい。(佐伯)

5. 連合大会プログラム委員からの報告

納田連合大会プログラム委員より、新しい連合大会プログラム委員として

大宮 正士(国立天文台)

押野 翔一(国立天文台)

が推薦され、異議なく承認された。

また、来年度の惑星科学セッションコンビーナに

濱野 景子 会員(東京大学)(正)

鎌田 俊一 会員(北海道大学)(副)

が選出されたとの報告がなされた。

今回は連合大会の国際化の傾向が強まるので、関係者の負担が大きくなる可能性がある。注意が必要である(渡邊)

6. 2015年秋季講演会・学会賞実施案

井田2015年秋季講演会組織委員長より、以下の報告があった。

- ・10/14-16に東京工業大学に新築中のELSI棟(ELSI1)で実施
- ・口頭発表会場の椅子の配置数は要検討
- ・懇親会は現存するELSI2で行う事を計画している。軽食と飲み物のみで参加費を押さえる
- ・予算案も去年とほぼ同じ
- ・10/17にアウトリーチイベント(ELSI主催、学会共催)：内容は検討中

投稿スケジュールは開催スケジュールによらず、遊星人の発行スケジュールに依存するので、昨年とあまり変わらない。7月末までに発表賞予備審査を終える必要がある。

7. 2017年秋季講演会について

中村行事部会委員、佐々木委員より以下の報告があった。

2017年秋季講演会は阪大豊中キャンパスで開催予定。

阪大の学事歴が変わらなければ、いまの所9月は夏期休暇中で会場確保は容易。もし学事歴が変わると授業期間にあたる可能性もあり、その場合は会場確保方法を要検討。

8. 宇宙惑星科学セクションから(学生賞、国際セッション)

佐々木委員より、以下の報告があった。

- ・学生発表賞進行中だが、審査員確保に課題を残した
- ・西田賞：セクションから5名受賞、学会関係者は以下の通り
河北 秀世 会員(京都産業大学) (学会から推薦)
相川 祐理 会員(筑波大学)

再来年の連合大会はAGUと共同開催となり、それに向けて来年度も国際化の流れがある。

9. ISTS, COSPARへの協力をお願い

佐々木委員より、以下の報告があった。

ISTS: 7/4-10開催予定

COSPAR: 2016/7/30-8/7 イスタンブール(トルコ)にて、今年度のCOSPARシンポジウム(COSPAR本会が行われない年に開催)はイグアスフォールズ(ブラジル)11/6-13, メ切5/31

10. J-stage Liteの報告

中村行事部会委員より、以下の報告があった。

秋季講演会予稿集を置いているCiNiiが終了予定である。代わりの候補としてJ-stage Liteがあるが、登録用にメタ情報を付ける必要がある、情報化専門委員とも要相談と考えている。

11. 学会賞選考委員の入れ替え(諸田総務専門委員長)

諸田総務専門委員長より学会賞選考委員会委員の交代について説明がなされ、承認された。

2014年度で退任となる委員：佐伯 和人、杉田 精司、小林 浩、和田 浩二

2014年度から継続する委員：中村 昭子、竹内 拓、竹広 真一、三河内 岳

2015年度新委員として推薦：中村 智樹、大竹 真紀子、中本 泰史、関口 朋彦

12. 入退会について

諸田総務専門委員長より、入退会状況が報告された。

13. その他総務からの案件(議長・書記の承認等)

諸田総務専門委員長より、第43回総会の議長として北里 宏平会員、書記として樋口 有理可会員が推薦され、了承された。

14. 各種専門委員会方針(各専門委員長)

平田情報化専門委員長より、以下の報告が行われた。

現在の惑星科学会サーバーのOSは、2017年3月にサポート切れとなる。OS移行に合わせてサーバ環境全体の更新を計画。2016年4月に更新・移行を完了することを目標に、作業を始めている。

また、新たな情報化専門委員として納田 明達 会員(東京工業大学)を追加する事が提案され、異議なく承認された。

生駒欧文誌専門委員長より、以下の報告が行われた。

EPSの投稿数増加のため、総会の際にアンケートを実施予定である。

15. 2016年秋季講演会について

はしもと2016年秋季講演会組織委員長より、以下の報告が行われた。

日程：2016/9/12-14

会場：ノートルダム清心女子大学

16. シニア会員制度に関して

竹広財務専門委員長、橋将来計画専門委員長より以下の報告が行われた。

竹広：現在の会員年齢構成を元に将来のシミュレートを行った

- ・40歳代に会員人数のピークがある

- ・それ以降は各年齢10-15人程度
- ・最低限このペースを維持しないと規模的に苦しくなる。

橘：鉱物科学会・地球化学会のシニア会員制度を調査中

17. 退会規定の厳格化について

千秋委員より以下の報告が行われた。

次の年度へ間に合うように検討を開始した、もし会則改定になる場合は秋季講演会時のことになる。

18. 日本地球惑星科学連合の報告(倉本会長)

当日の議事としては省略された。

19. 対外協力委と連合連携委の一本化

20. 対外協力委員の追加

小久保対外協力専門委員より、合理化のため対外協力専門委員会と日本地球惑星科学連合連携専門委員会を一本化する事が提案された。現在も連合との連携は主に会長が行っているため、両委員会の委員は基本的に新委員会の委員になる。新委員会の名称を「対外協力・連携専門委員会」とし、新委員会の委員長は現対外協力専門委員長の

中本会員。

また、新委員会の委員として、

矢野 創 会員(宇宙科学研究所)

押野 翔一 会員(国立天文台)

佐々木 晶 会員(大阪大学)

を新たに追加する事と、

納田 明達 会員(東京工業大学, 2014-2015年連合大会プログラム委員)の退任が提案された。

上記の提案は異議なく承認された。

女子中高生夏の学校2015が8/6-8に国立女性教育会館にて開催される。小川委員が参加予定である。

本イベントの惑星科学会の協賛が提案され、異議なく承認された。

<http://www.djrenrakukai.org/symposium2.html>

小川会員の参加に関わる旅費の支出元はどこか？(並木)

所属の会津大学から支出されるものと思われる(平田)

21. 遊星人の発行状況報告

和田編集専門委員長より遊星人はつつがなく発行されている旨、報告がなされた。

22. その他

宇宙科学研究所より惑星科学会を含む各コミュニティに対して研究領域の目標・戦略・工程表の提供の依頼(RFI)があった。並木会員を部会長としてISAS RFI検討作業部会を設置して工程表案の作成を行い、運営委員会での議論を経たあと提出した。宇宙研内でこの工程表内の火星衛星サンプルリターン計画が今後のミッションの候補として注目され、検討を行う委員会が設置されている。

来る10年の結果との整合性はどう考えるのか？

工程表と来る10年検討はやや前提条件が異なる(期間や範囲)。工程表にも来る10年の結果は反映はされている(完全に盛り込む場合は優先順位を付けなければいけなかったが、そのようにはしていない)。

連携拠点の構想は学会としての見解になるよう、学会内に広く認識されるようにすべき(春山)

同意である(会長)

◇日本惑星科学会賛助会員名簿

2015年9月25日までに、賛助会員として本学会にご協力下さった団体は以下の通りです。社名等を掲載し、敬意と感謝の意を表します。(五十音順)

株式会社五藤光学研究所
有限会社テラパブ
株式会社ニュートンプレス

◇日本惑星科学会主催・共催・協賛・後援の研究会情報

(a)場所, (b)主催者, (c)ウェブページ/連絡先など.

転記ミス, 原稿作成後に変更等があるかもしれません. 各自でご確認ください.

2015/10

- 10/7-10/9 第59回宇宙科学技術連合講演会**
(a)かごしま県民交流センター, 鹿児島市山下町
(b)日本航空宇宙学会
(c)<http://ukaren.aero.kyushu-u.ac.jp/>
- 10/10-10/11 可視化情報全国講演会(京都2015)**
(a)京都工芸繊維大学松ヶ崎キャンパス, 京都府京都市左京区松ヶ崎
(b)可視化情報学会
(c)http://www.measlab.kit.ac.jp/cf/2015/vsj2015_kyoto.html
- 10/14-10/16 日本惑星科学会 秋季講演会**
(a)東京工業大学大岡山キャンパス, 東京都目黒区大岡山
(b)日本惑星科学会
(c)<https://www.wakusei.jp/meetings/fallmeeting/>

2015/11

- 11/10-11/12 第56回高压討論会**
(a)アステールプラザ, 広島県広島市中区加古町
(b)日本高圧力学会
(c)<http://www.highpressure.jp/new/56forum/>

2016/06

6/26-7/1**Goldschmidt Conference 2016**

(a) 横浜国際平和会議場(パシフィコ横浜), 神奈川県横浜市

(b) European Association of Geochemistry, Geochemical Society

(c) <http://goldschmidt.info/2016/index>